

	発行者の略号	教出	教芸
	書名	中学器楽 音楽のおくりもの	中学生の器楽
（ア） 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	「音楽を愛好する心情を育み、豊かな情操を養う教材と学習を設定する」「学習の見通しがもて、学びを深める」「教師と生徒の一人一人に寄り添って授業を支える」という観点を趣旨として作成されている。	「主体的に学びたいくなる」「何をどのように学ぶのかを明確にすることで、学びがわかる」「生徒の学びが深まる」を基本方針とし、ICT や SDGs、ユニバーサルデザインなどの今日的な課題にも対応した内容となっている。
	（7）教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 教育基本法（第 1 条、第 2 条）及び学校教育法（第 49 条・第 30 条 2 項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の 3 つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①基礎的・基本的な奏法が身に着けられるよう、各ページの左上に明確な目標が示されている。また、各楽器の最後には、習得した知識や技能をいかして表現する「まとめの曲」が掲載されている。 ②「音楽を形づくっている要素」とその働きに着目し、知覚したことと感受したこととの関わりや音楽的な見方・考え方を活用できるよう工夫されている。 ③巻頭ページには、日本や世界の様々な楽器が載せられており、音楽文化と豊かに関わるための教材として示されている。	①どの楽器についても、知識に関する情報がたくさん示されている。また、図や写真が多く用いられているため、それらを活用して知識を得ることができる。 ②「学びのコンパス」では、表現活動を通して、思考力・判断力を育成するための工夫がされている。 ③巻頭ページには、各界で活躍する文化人・音楽家たちの言葉が載せられており、音楽を通した生き方や価値観を学ぶための教材として示されている。
	（4）市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	市の方針に関連している。	市の方針に関連している。
	（ウ）内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①多様な楽器の組み合わせによるアンサンブル活動が多数掲載されており、基本的な奏法を生かして他者と協働して表現することができる工夫がされている。 ②英語歌詞（外国語科）、楽器の背景にある文化や伝統（社会科）、復興国際ピアノ（道徳）など、様々な教科の学習内容との関連が示されている。 ③キャラクターが吹き出しで具体的な内容を示していたり、「表現の仕方を調べてみよう」等で考えたことを交流したりするなど、言語活動が充実するよう工夫されている。 ④和楽器の基本的奏法に関する内容がわかりやすく示されている。また、我が国の音楽文化の継承、発展に関わる演奏家や伝統音楽の担い手が紹介されている。 ⑤和楽器を学習する際に、親しみや実感を持って音楽に接することができるよう、唱歌を歌う活動が示されている。 ⑥リコーダーの教材は、同じ楽曲をアルトリコーダーとソプラノリコーダー両方で提示し、小学校の学びをそのままいかせるように、また学校の実態に合わせて選択することができるようになっている。 ⑦「まなびリンク」では、学習に対応した動画や資料を見ることができる。 ⑧奏法の説明に図が用いられていたり、ヒントが多く示されていたりすることにより、理解が深まる工夫がされている。 ⑧リコーダーのアーティキュレーションのページでは、楽譜と言葉、図でわかりやすく示されている。 ⑧配色やフォント、ページデザインについてユニバーサルデザインの視点で工夫されている。難しい漢字や固有名詞にはルビがふられている。 ⑨楽器の持ち方や運指、口の角度など、拡大された写真が多く用いられており、初めて楽器に触れる生徒にとってわかりやすくなっている。	①各教材において、学習目標や目標を達成するためにどのようなことを意識するべきかが明確に示されており、生徒が主体的に学習を進められる工夫がされている。 ②英語歌詞（外国語科）、楽器の背景にある文化や伝統（社会科）など、様々な教科の学習内容との関連が示されている。 ③「My Melody」や「学びのコンパス」では、キャラクターの吹き出しで具体的な内容が示されており、考えたことを交流したりするなど、言語活動が充実するよう工夫されている。 ④和楽器のページでは、楽器の奏法だけでなく、姿勢や礼儀などについてのコラムも掲載されている。 ④和楽器を用いた平易なアンサンブル曲や、生徒にとって親しみやすい曲が取り入れられている。 ⑤和楽器を学習する際に、親しみや実感を持って音楽に接することができるよう、唱歌や口三味線を歌う活動が示されている。 ⑥リコーダーの教材は、同じ楽曲をアルトリコーダーとソプラノリコーダー両方で提示し、小学校の学びをそのままいかせるように、また学校の実態に合わせて選択することができるようになっている。 ⑦各ページに二次元コードが掲載されており、それぞれの学習に対応した動画や資料、音源等を見ることができる。 ⑧リコーダーの運指がオクターブで横並び（同じページに掲載）になっており、見やすい配置となっている。 ⑧題材名の横に学習目標を達成するための問いが書かれているため、教師にとっては授業づくりがしやすく、生徒にとっては学習にあたり何を意識するべきかが明確になっている。 ⑧配色やフォント、ページデザインについてユニバーサルデザインの視点で工夫されている。難しい漢字や固有名詞にはルビがふられている。 ⑨楽器の持ち方や運指、口の角度など、拡大された写真が多く用いられており、初めて楽器に触れる生徒にとってわかりやすくなっている。 ⑨文章や楽譜などの近くにイラストや写真を配置する場合には、学習上に必要な情報に確実に注目することができるよう、シンプルなデザインになっている。
（イ） 教科・種目別の観点	（I）分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①適切である。 ②写真やイラストが多く使われており、生徒がイメージしやすい工夫がされている。 ②ページ同士を接着した丈夫で長持ちする様式のものとなっている。 ③楽譜は全体的にシンプルで見やすく、弾きやすいものが多い。 ③中学生の発達段階に合わせてルビがふられている。	①適切である。 ②写真やイラストが多く使われており、生徒がイメージしやすい工夫がされている。 ②ページ同士を接着した丈夫で長持ちする様式のものとなっている。 ③中学生の発達段階に合わせてルビがふられている。
	①表現及び鑑賞の基礎的な能力を養うために、〔共通事項〕をよりどころとして、主体的・協働的な学習の展開が図られるような工夫や配慮がなされているか。	①目次とは別に、〈共通事項〉に基づく題材とその学習目標が明確に示されており、生徒がゴールをイメージしながら取り組むことができる。 ①楽器ごとに、合奏の難易度（Let’s Play!）や（Let’s Try!）が表示されていたり、活動例がアイコンで分かりやすく表示されていたりする等、生徒の興味・関心を惹くような工夫がされている。	①目次とは別に、表現及び鑑賞の学習内容を系統的にまとめたページが設置されており、学びの内容、関連する共通事項などが確認できるようになっている。 ①〈共通事項〉に基づく題材とその学習目標が明確に示されており、生徒がゴールをイメージしながら取り組むことができる。
	②「A表現」や「B鑑賞」の教材は、学習を積み重ねていくことができるよう、系統的、発展的に配列されているか。	②どの楽器についても、楽器各部の名称、演奏するときの姿勢などを丁寧に図説したあと、平易な練習曲から徐々に表現力を高めていくよう配列されている。	②どの楽器についても、楽器各部の名称、演奏するときの姿勢などを丁寧に図説したあと、平易な練習曲から徐々に表現力を高めていくよう配列されている。
	③音楽文化の理解について、多様な音楽を、身の回りの生活や社会と関連させながら学習するための工夫や配慮がなされているか。	③掲載されている曲数が多く、また生徒にとって身近なジャンルの曲が掲載されており、自分の興味に合わせて学びを深めていくことができる。 ③それぞれの楽器について、演奏者のメッセージや言葉が、音楽を通して生き方を学ぶためのメッセージとなっている。	③様々な編成や生徒にとって身近なジャンルの曲が掲載されており、自分の興味に合わせて学びを深めていくことができる。 ③それぞれの楽器について、演奏者のメッセージや言葉が、音楽を通して生き方を学ぶためのメッセージとなっている。